

2023年度
新入社員の意識調査

2023年5月

阿波銀行 経営相談所

はじめに

今年も大きな夢と希望に胸をふくらませ、将来に無限の可能性を秘めた多くの新社会人が誕生しました。

新入社員を迎える企業の経営者の方々は、新入社員の考え方や行動特性を十分に理解し、この若い力を自社の将来を担う大切な社員として育成していかなければなりません。

当経営相談所では、3月28日から30日、4月4日、4月10日から4月13日の8日間、徳島県内の企業に入社される方々を対象に、「新入社員セミナー」（あわぎんビジネスカレッジ主催）を開催いたしました。

その際、セミナー参加者に無記名アンケート方式による「意識調査」を実施し、ここに調査結果をまとめました。

本調査結果が、各企業において、新入社員の指導育成や日常の人事管理に少しでもお役に立てば幸いです。

なお、末筆ながら、本調査にご協力をいただきました方々に対して、心より御礼申し上げます。

2023年5月

阿波銀行 経営相談所

目 次

I 調査概要	1
II 調査結果	
～今年の新入社員のタイプは～	2
問1 あなたは、どんな「生き方」をしたいと思っていますか？	3
問2 社会人となるにあたり期待や不安は？	4
問3 社会人生活にどんな期待がありますか？	5
問4 社会人生活にどんな不安がありますか？	6
問5 仕事をする上で重視することは何ですか？	7
問6 徳島県内の企業に就職した理由は何ですか？	8
問7 今の企業を選んだ理由は何ですか？	9
問8 職場環境に望むことは何ですか？	10
問9 上司や先輩に期待することは何ですか？	11
問10 あなたが今自信のある能力はどれですか？	12
問11 自信はないが、今後意識的に強化したい能力はどれですか？	12
問12 残業についてお聞かせください	13
問13 仕事とプライベートについてお聞かせください	14
問14 30歳時点で目指す年収はいくらですか？	15

I 調査概要

1. 調査期間 2023年3月28日～30日、4月4日～4月13日
2. 方法 無記名アンケート方式
3. 対象 あわぎんビジネスカレッジ主催
「新入社員セミナー」参加者
4. 参加企業 114社
5. 参加者数 406名
6. 回答者数 389名 回収率 95.8%

(内訳)

	大学卒	短大卒	高校卒	計
男性	86	33	65	184
女性	98	45	54	197
無回答	2	3	3	8
計	186	81	122	389

(注) 短大卒に専門学校卒を含む

～今年の新入社員の傾向は～

1. ワークライフバランスを重視し、安定した生活を目指す

- ・希望する生き方については「平凡な生き方」が23.7%で初めて1位となったが、「自分の能力を發揮できる生き方」と「幸福な家庭を築きたい」が20.8%、「お金を貯めて豊かな生活」も20.1%とあまり差はない。(問1)
- ・社会人生活への期待は「収入が得られる」60.4%、「人間としての成長」52.2%の2項目が過半数を超えた。(問3)
- ・仕事で重視することの1位は「仕事のやりがい・楽しさ」で60.2%、2位「収入」で48.8%。次いで、「自分自身の成長」43.2%、「良好な人間関係」39.6%、「プライベートの充実」32.6%となった。(問5)
- ・仕事とプライベートの優先度に関しては、「プライベート優先」「どちらかといえばプライベート優先」で7割を超えた。(問13)
- ・理想の年収(30歳時点)は、400万円台が1位で31.4%、2位が500万円台の22.4%、3位300万円台18.5%となった。500万円以上と答えた人が46.2%となり、昨年よりも9.2ポイント上昇した。(問14)

2. 良質なコミュニケーションと寄り添った丁寧な指導、適切な承認が必要

- ・社会人生活での不安は「仕事についていけるか」が67.9%と圧倒的だが、「職場での人間関係」も48.1%と2人に1人が選択。(問4)
- ・仕事上で重視することについても「良質な人間関係」は39.6%と高い選択率。(問5)
- ・職場環境に望むのは、1位「お互いに協力し助け合う風土」65.3%、2位「アットホームな雰囲気」45.8%。(問8)
- ・上司や先輩に期待することは、「仕事に関しての丁寧な指導」が1位で48.6%。次いで、2位「きちんとほめる」35.7%、3位「相手の意見や考えをよく聞く」31.4%となった。(問9)

3. 成長意欲は高い。必要なのは積極的なアウトプットと理解できている。

- ・今後の期待として「人間としての成長」52.2%の他にも、「技術・スキルを身につけられる」31.9%、「新しいことに挑戦できる」29.6%が高い選択率。(問3)
- ・仕事をする上で重視することについても43.2%が「自分自身の成長」を挙げている。(問5)
- ・自信のある能力については「傾聴力」が40.6%で1位。今後強化していきたいことは、1位の「主体性」38.8%をはじめ、「発信力」26.2%、「実行力」24.7%、「働きかけ力」23.9%と、仕事をしていく上では積極的なアウトプットが必要と認識できている。

【まとめ】

今年の新入社員は学生生活において、もともと新型コロナの影響を受けた世代である。様々な行動制限があり、コミュニケーションの大部分がオンラインへ移行し、人との接触機会が大幅に減少。そのため、逆に人との触れ合いの大切さを理解し、職場環境には良質なコミュニケーションを求めるのではないだろうか。さらには、近年はロシア・ウクライナ戦争による国際社会の緊張、原料価格や物流費の高騰による物価高など、外部環境の変化に自分たちの生活が翻弄されることに直面したことにより、安定を強く求めるようになったと推察される。

「Z世代」や「さとり世代」と呼ばれる世代で過剰な物欲などがなく、必死に働いて給料を稼ぐというよりも、自分のライフスタイルを尊重して生きたいという傾向が強い。それでも自分自身への成長期待は感じられ、そのために必要な能力やスキルについても十分理解できている。また、デジタルネイティブで様々なツールを使い答えを導くことに関しては高いスキルを持っている。

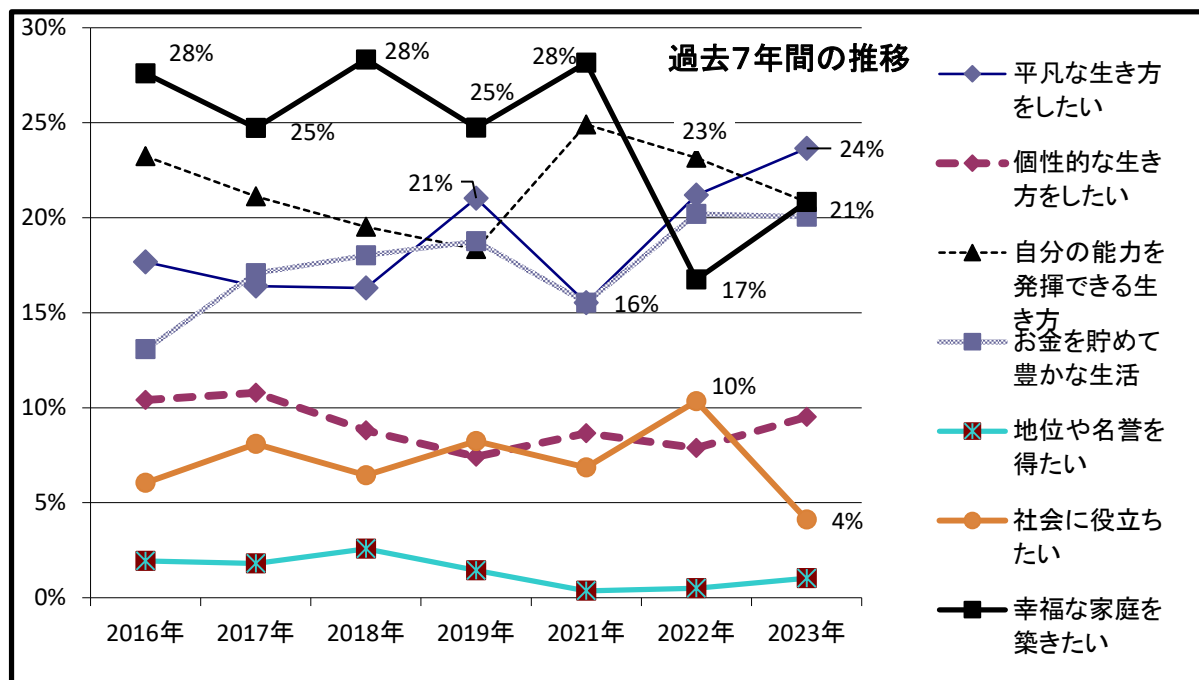
世代間の価値観の違いを受け入れ、これまで以上に不安な面や経験不足の部分を汲み取った接し方が必要となる。「これくらいわかるだろう」という思考を持たず、できるだけ丁寧な指導を心がけることにより、うまくいけば思いがけない成果を發揮するかもしれない。

問1 あなたは、どんな「生き方」をしたいと思いますか？

項目	分類	男女別			学歴別			
		合計	男性	女性	無回答	高校卒	短大卒	大学卒
平凡な生き方をしたい		23.7%	25.0%	22.3%	25.0%	30.3%	16.0%	22.6%
個性的な生き方をしたい		9.5%	12.0%	6.6%	25.0%	7.4%	9.9%	10.8%
自分の能力を發揮できる生き方をしたい		20.8%	20.1%	22.3%	0.0%	12.3%	32.1%	21.5%
お金を貯めて豊かな生活をしたい		20.1%	18.5%	20.8%	37.5%	22.1%	23.5%	17.2%
地位や名誉を得たい		1.0%	2.2%	0.0%	0.0%	0.8%	0.0%	1.6%
社会に役立ちたい		4.1%	4.3%	4.1%	0.0%	5.7%	7.4%	1.6%
幸福な家庭を築きたい		20.8%	17.9%	23.9%	12.5%	21.3%	11.1%	24.7%

人生に対する価値観・期待感は分散傾向

「平凡な生き方をしたい」が昨年から2.5ポイント上昇し初めて1位となった。続いて「自分の能力を發揮できる生き方をしたい」・「幸福な家庭を築きたい」そして「お金を貯めて豊かな生活をしたい」と続いた。この上位4項目が8割以上を占めることは長年変化はないが、この2年でそれぞれの差が縮まり、特に今年は4項目がほぼ一列に並んだ。自分の望むまたは期待する人生の価値観が分散されてきたような感がある。男女別で見た場合、特に女性でその傾向が強く表れており、女性活躍推進の浸透などが新入社員の意識にも影響を及ぼしているかもしれない。



※図表中の表示数値は小数点以下を四捨五入

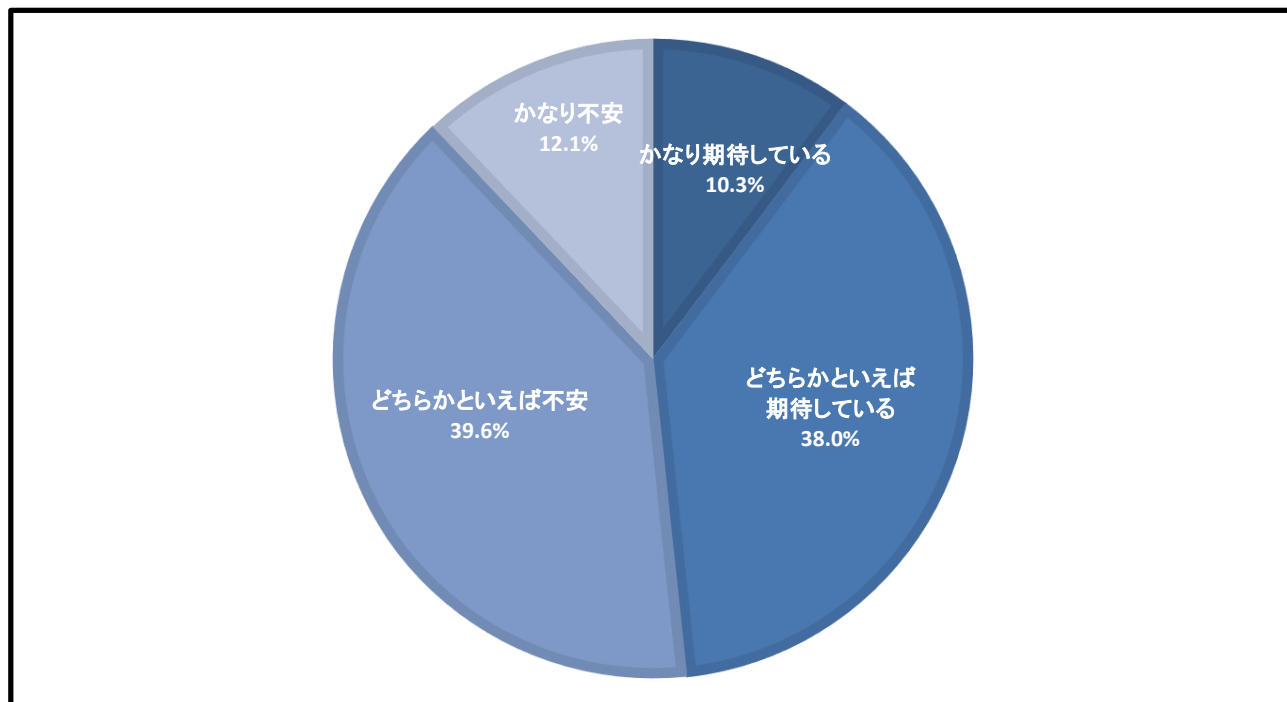
問2 社会人となるにあたり期待や不安は？

項目	分類	男女別			学歴別			
		合計	男性	女性	無回答	高校卒	短大卒	大学卒
かなり期待している		10.3%	12.0%	8.6%	12.5%	12.3%	6.2%	10.8%
どちらかといえば期待している		38.0%	42.9%	34.5%	12.5%	36.9%	38.3%	38.7%
どちらかといえば不安		39.6%	37.0%	41.6%	50.0%	43.4%	40.7%	36.6%
かなり不安		12.1%	8.2%	15.2%	25.0%	7.4%	14.8%	14.0%

期待と不安、半々

期待合計48.3%に対して不安合計51.7%と若干の差はあるものの、昨年のような開きはなく(昨年は不安合計が62.1%)、ほぼ半々と言ってよい結果となった。

実際にこの新入社員研修の会場においても、もちろん不安や戸惑いの表情も見せるが、明るく積極的に取り組む受講生が多かったような感はある。



※図表中の表示数値は小数点以下を四捨五入

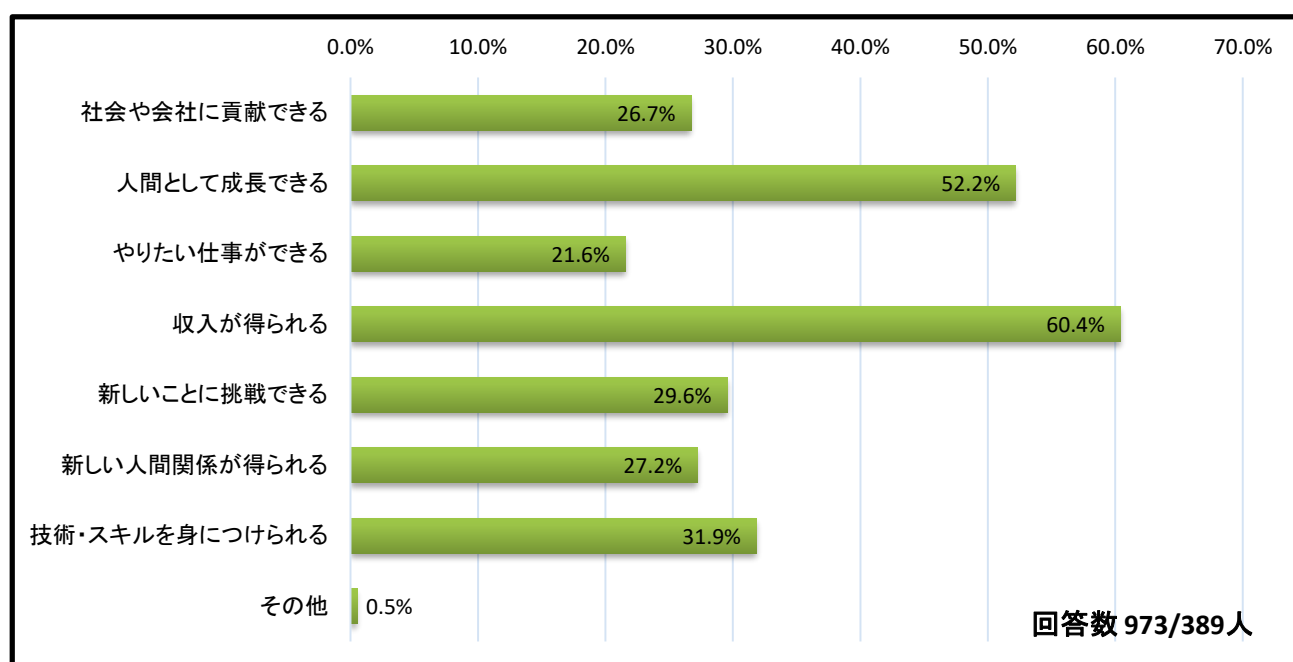
問3 社会人生活にどんな期待がありますか？(複数回答可、最大3項目)

項目	分類	男女別			学歴別			
		合計	男性	女性	無回答	高校卒	短大卒	大学卒
社会や会社に貢献できる		26.7%	31.0%	22.8%	25.0%	26.2%	19.8%	30.1%
人間として成長できる		52.2%	52.7%	51.3%	62.5%	49.2%	55.6%	52.7%
やりたい仕事ができる		21.6%	22.3%	21.3%	12.5%	18.0%	27.2%	21.5%
収入が得られる		60.4%	59.2%	60.4%	87.5%	59.0%	55.6%	63.4%
新しいことに挑戦できる		29.6%	29.3%	30.5%	12.5%	31.1%	33.3%	26.9%
新しい人間関係が得られる		27.2%	29.9%	25.4%	12.5%	27.9%	22.2%	29.0%
技術・スキルを身につけられる		31.9%	31.0%	34.0%	0.0%	31.1%	40.7%	28.5%
その他		0.5%	0.0%	1.0%	0.0%	0.8%	1.2%	0.0%

収入はもちろん、キーワードは「成長」

社会人としての期待は、「収入を得られる」ことが選択率60%を超え1位、続いて「人間として成長できる」が52.2%で2位、少し差が開くが3位「技術・スキルを身につけられる」31.9%、4位「新しいことに挑戦できる」29.6%と続いた。男女別、世代間別でもよく似た傾向となった。

社会人となり自分が働いて得る収入に期待することはもちろんだが、「人間として成長できる」「技術・スキルを身につけられる」「新しいことに挑戦できる」といった項目の選択率が高く、今後の自分自身が「成長」したいという積極的な姿勢が見て取れる。



※図表中の表示数値は小数点以下を四捨五入

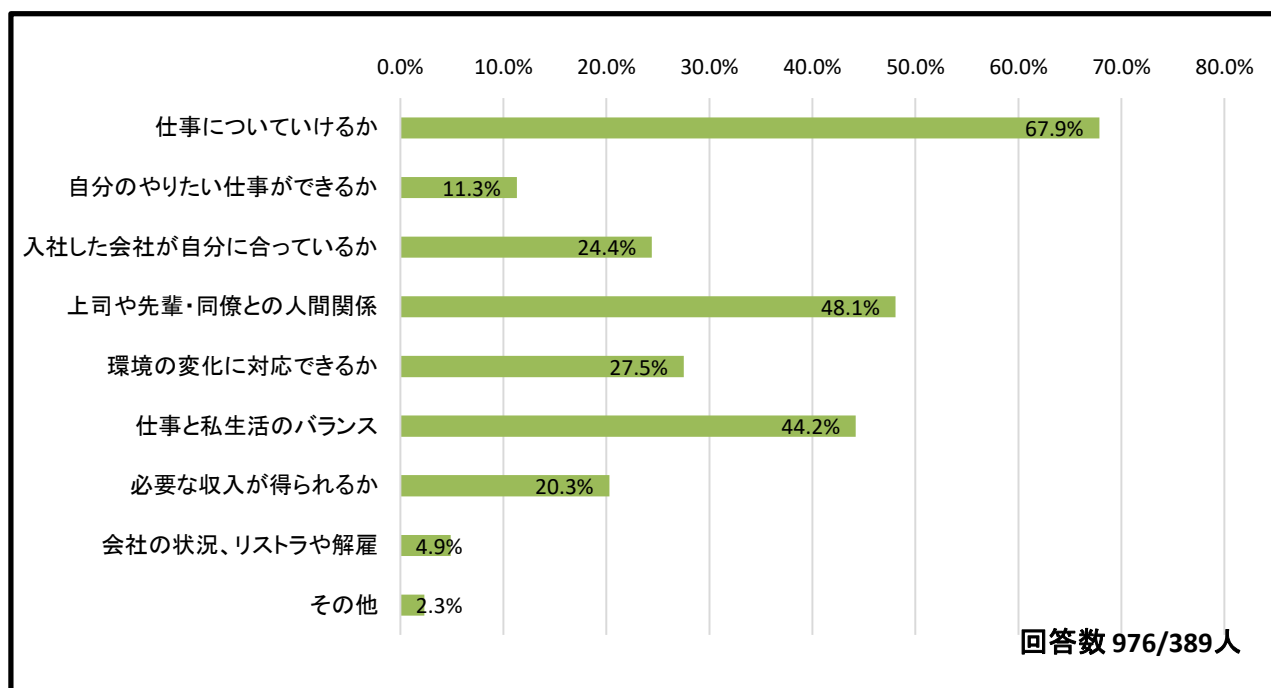
問4 社会人生活にどんな不安がありますか？(複数回答可、最大3項目)

項目	分類	男女別			学歴別			
		合計	男性	女性	無回答	高校卒	短大卒	大学卒
仕事についていけるか		67.9%	64.7%	72.1%	37.5%	63.9%	70.4%	68.8%
自分のやりたい仕事ができるか		11.3%	12.5%	9.6%	25.0%	11.5%	11.1%	11.3%
入社した会社が自分に合っているか		24.4%	27.7%	21.3%	25.0%	27.9%	23.5%	22.6%
上司や先輩・同僚との人間関係		48.1%	40.2%	54.8%	62.5%	42.6%	53.1%	48.9%
環境の変化に対応できるか		27.5%	27.2%	28.4%	12.5%	31.1%	22.2%	26.9%
仕事と私生活のバランス		44.2%	38.6%	50.3%	25.0%	39.3%	44.4%	47.3%
必要な収入が得られるか		20.3%	25.5%	15.7%	12.5%	23.0%	17.3%	19.9%
会社の状況、リストラや解雇		4.9%	7.6%	2.5%	0.0%	5.7%	2.5%	5.4%
その他		2.3%	4.3%	0.5%	0.0%	1.6%	3.7%	2.2%

大半の新入社員が仕事についていけるか不安

「仕事についていけるか不安」と回答した人が約7割とダントツで1位。続いて「上司や先輩・同僚との人間関係」が48.1%、「仕事と私生活のバランス」が44.2%、「環境の変化に対応できるか」が27.5%、「入社した会社が自分に合っているか」が24.4%となり、多少各選択率の増減はあるものの、昨年と全く同じ順位となった。

学生生活からは生活リズムも変わり、関わる人間層も大きく広がるため、職場でのコミュニケーションも含め、自分がちゃんと仕事で通用するかどうか不安に感じることは、新社会人として当然の感情だと言える。



※図表中の表示数値は小数点以下を四捨五入

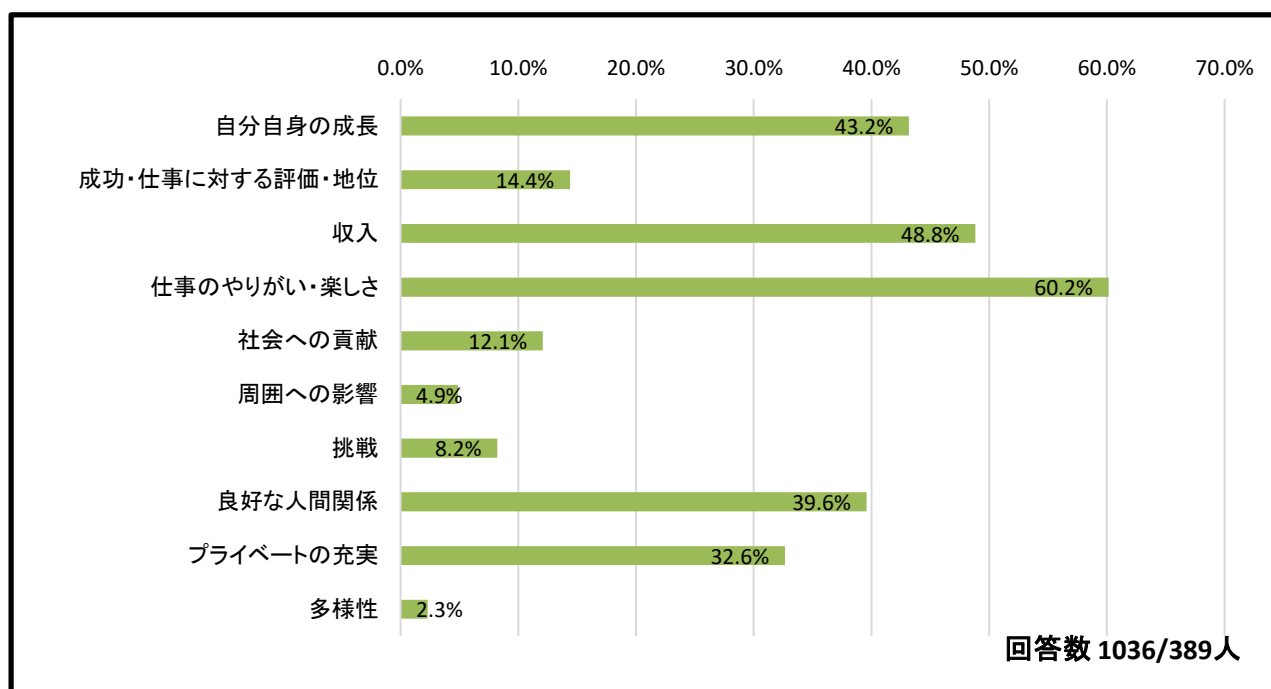
問5 仕事をする上で重視することは何ですか？(複数回答可、最大3項目)

項目	分類	男女別			学歴別			
		合計	男性	女性	無回答	高校卒	短大卒	大学卒
自分自身の成長		43.2%	56.0%	32.0%	25.0%	48.4%	40.7%	40.9%
成功・仕事に対する評価・地位		14.4%	21.2%	8.6%	0.0%	11.5%	18.5%	14.5%
収入		48.8%	54.3%	44.7%	25.0%	43.4%	49.4%	52.2%
仕事のやりがい・楽しさ		60.2%	66.8%	54.8%	37.5%	65.6%	59.3%	57.0%
社会への貢献		12.1%	15.8%	9.1%	0.0%	9.0%	11.1%	14.5%
周囲への影響		4.9%	6.0%	4.1%	0.0%	4.9%	7.4%	3.8%
挑戦		8.2%	10.3%	6.6%	0.0%	9.0%	9.9%	7.0%
良好な人間関係		39.6%	40.8%	40.1%	0.0%	45.9%	30.9%	39.2%
プライベートの充実		32.6%	35.9%	29.9%	25.0%	22.1%	37.0%	37.6%
多様性		2.3%	1.6%	2.5%	12.5%	1.6%	2.5%	2.7%

半数以上が「やりがい・楽しさ」を重視

「仕事のやりがい・楽しさ」が選択率60.2%でトップ。2位「収入」48.8%、3位「自分自身の成長」43.2%、4位「良好な人間関係」39.6%と続いた。「周囲への影響」や「挑戦」、「多様性」の選択率が低い結果となった。

昨年と同様の傾向だが、「プライベートの充実」が昨年の14.8%から32.6%と大きく上昇した。働くことへの期待や積極性と、私生活も楽しいものになりたいというワークライフバランスを重視する傾向が強くなっている。



※図表中の表示数値は小数点以下を四捨五入

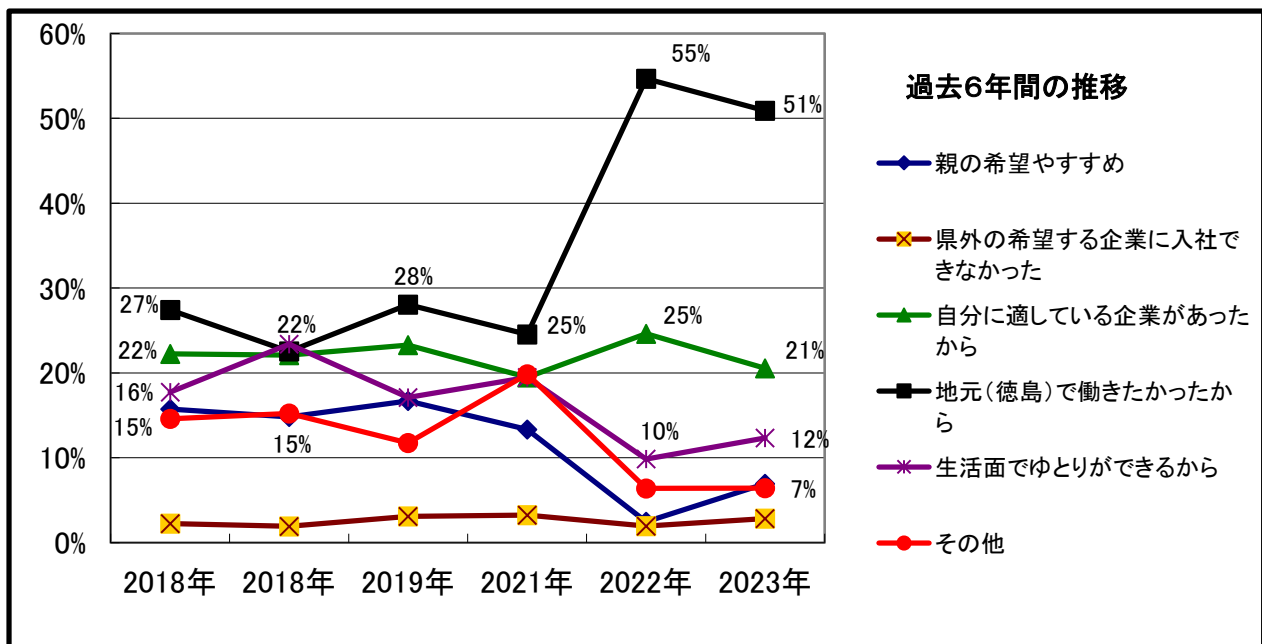
問6 徳島県内の企業に就職した理由は何ですか？

項目	分類	男女別			学歴別			
		合計	男性	女性	無回答	高校卒	短大卒	大学卒
自分に適している企業があったから		20.6%	21.2%	19.8%	25.0%	18.0%	17.3%	23.7%
地元(徳島)で働きたかったから		50.9%	51.1%	49.7%	75.0%	54.9%	53.1%	47.3%
生活面でゆとりができるから		12.3%	14.1%	11.2%	0.0%	13.9%	12.3%	11.3%
親の希望やすすめ		6.9%	4.3%	9.6%	0.0%	9.0%	4.9%	6.5%
県外の希望する企業に入社できなかった		2.8%	3.8%	2.0%	0.0%	0.8%	1.2%	4.8%
その他		6.4%	5.4%	7.6%	0.0%	3.3%	11.1%	6.5%

「地元志向」継続

昨年より3.8ポイント低下したが、「地元(徳島)で働きたかった」が5割を占め第1位となり、2年続けて圧倒的な結果となった。2位は「自分に適している企業があった」で20.6%。男女別・学歴別とも総じて同じ傾向となっている。

この2年間は地元志向が顕著に表れており、長い新型コロナ禍での学生生活が、地元徳島への愛着を強めたのではないかと推察される。



※図表中の表示数値は小数点以下を四捨五入

問7 今の企業を選んだ理由は何ですか？

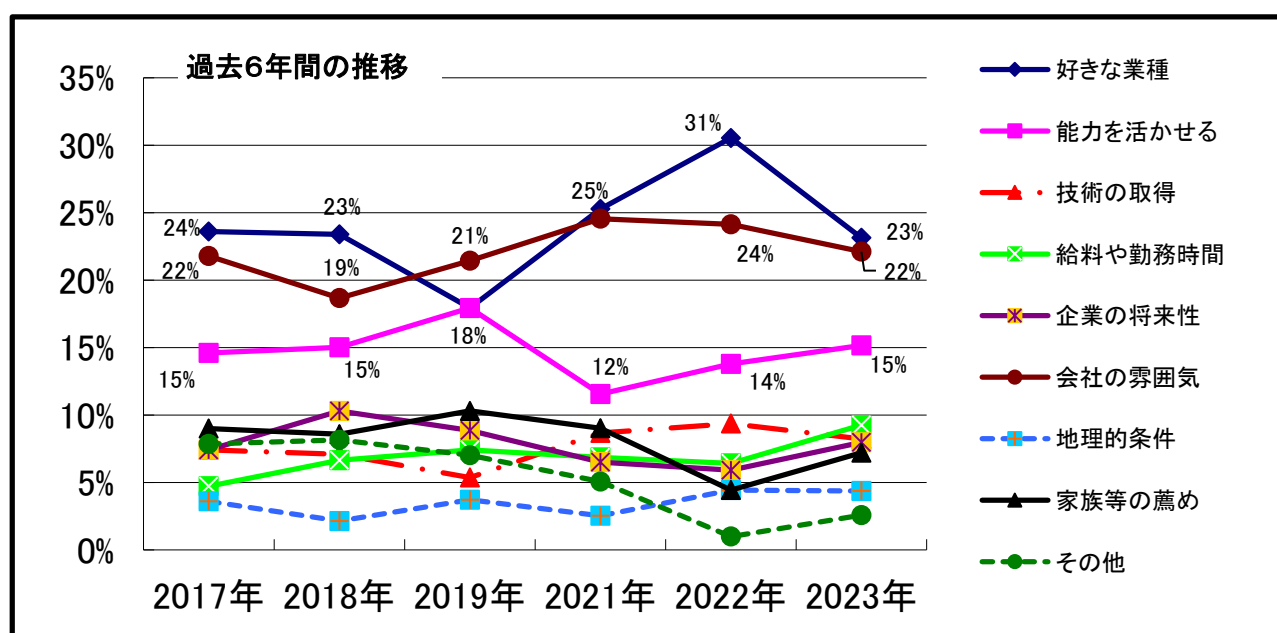
項目	分類	男女別			学歴別			
		合計	男性	女性	無回答	高校卒	短大卒	大学卒
自分の好きな業種だから		23.1%	23.9%	22.8%	12.5%	23.0%	27.2%	21.5%
自分の能力や個性を生かせるから		15.2%	17.4%	13.2%	12.5%	12.3%	12.3%	18.3%
技術が覚えられるから		8.2%	7.6%	8.1%	25.0%	4.9%	11.1%	9.1%
労働条件が良いから		9.3%	10.9%	8.1%	0.0%	13.1%	9.9%	6.5%
将来性のある企業だから		8.0%	9.2%	7.1%	0.0%	4.9%	9.9%	9.1%
会社の雰囲気が良いから		22.1%	19.6%	24.4%	25.0%	27.0%	19.8%	19.9%
地理的条件が良いから		4.4%	4.9%	3.0%	25.0%	3.3%	1.2%	6.5%
家族や恩師に薦められたから		7.2%	5.4%	9.1%	0.0%	9.0%	6.2%	6.5%
その他		2.6%	1.1%	4.1%	0.0%	2.5%	2.5%	2.7%

業種と会社の雰囲気

昨年より7.4ポイントも減少したが、「自分の好きな業種だから」が23.1%で3年連続で1位。2位が「会社の雰囲気が良いから」で22.1%（昨年比2.0ポイント減）、3位が「自分の能力や個性を生かせるから」で15.2%（昨年比1.4増）となった。昨年と比べ上位3項目の差は縮まったが、その順位に変化はない。また、長年にわたりこの3項目が上位を占めている。

男女別に見ると、男性は「自分の能力や個性を生かせる」の割合が17.4%と高くなっている。女性については、「好きな業種」が昨年に比べ8.8ポイントも減少している。

また、学歴別では大学・短大卒で「好きな業種」「能力や個性を生かせる」「技術が覚えられる」で約5割を占めるのに対して、高校卒ではその割合が落ち、「雰囲気が良い」が27%と「労働条件が良い」の13.1%が高く特徴的である。



※図表中の表示数値は小数点以下を四捨五入(上位3項目のみ表示)

(職場環境)

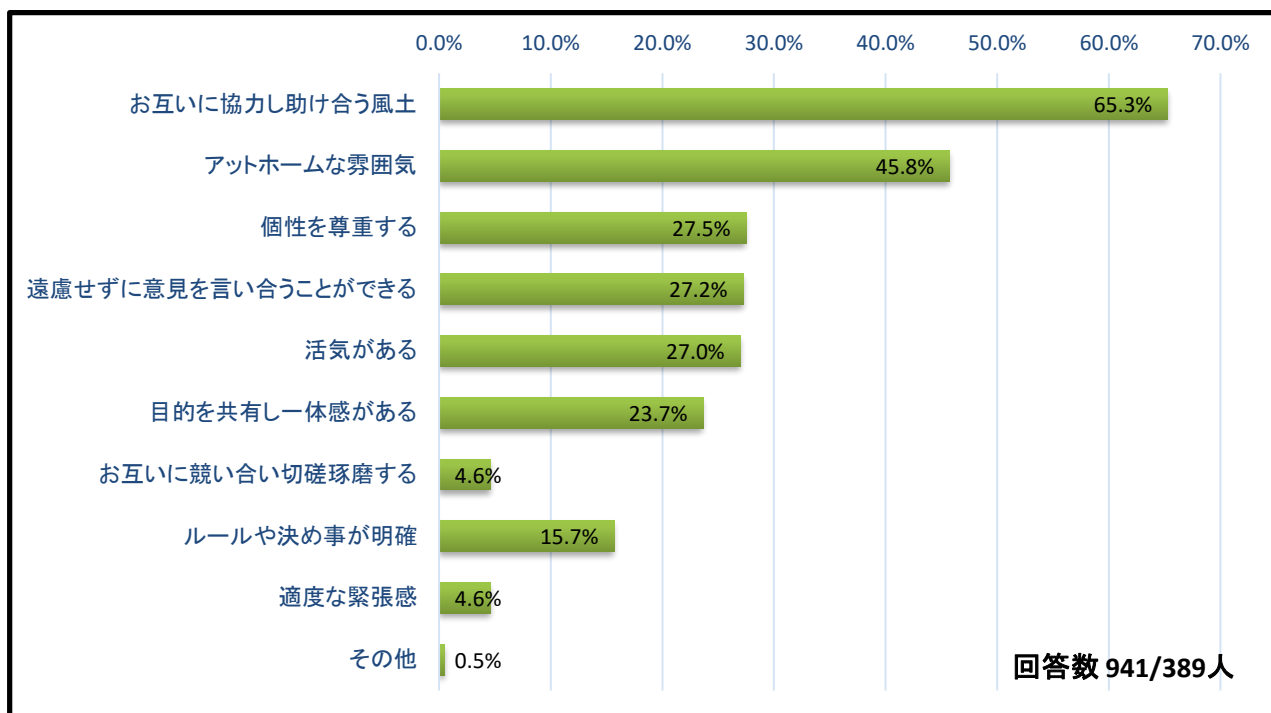
問8 職場環境に望むことは何ですか？(複数回答可、最大3項目)

項目	分類	男女別			学歴別			
		合計	男性	女性	無回答	高校卒	短大卒	大学卒
お互いに協力し助け合う風土		65.3%	65.2%	65.5%	62.5%	57.4%	72.8%	67.2%
アットホームな雰囲気		45.8%	44.6%	47.7%	25.0%	54.1%	40.7%	42.5%
個性を尊重する		27.5%	24.5%	29.9%	37.5%	23.0%	27.2%	30.6%
遠慮せずに意見を言い合うことができる		27.2%	28.8%	25.4%	37.5%	24.6%	29.6%	28.0%
活気がある		27.0%	32.1%	23.4%	0.0%	33.6%	24.7%	23.7%
目的を共有し一体感がある		23.7%	22.8%	24.9%	12.5%	16.4%	18.5%	30.6%
お互いに競い合い切磋琢磨する		4.6%	7.1%	2.5%	0.0%	6.6%	1.2%	4.8%
ルールや決め事が明確		15.7%	15.8%	15.7%	12.5%	17.2%	14.8%	15.1%
適度な緊張感		4.6%	6.0%	3.6%	0.0%	5.7%	4.9%	3.8%
その他		0.5%	0.0%	1.0%	0.0%	0.8%	1.2%	0.0%

最も職場に望むのは「良質なコミュニケーション」

働きたい職場環境は「お互いに協力し助け合う風土」が65.3%で圧倒的に1位。次いで「アットホームな雰囲気」で45.8%となり、この2つが高い選択率を集めた。「個人を尊重」、「遠慮せずに意見を言い合う」、「活気がある」、「一体感がある」も一定の支持があるが、「お互いに切磋琢磨」、「適度な緊張感」を求める人は非常に少ない。男女別、学歴別でも傾向はほぼ同じ結果となった。

良好なコミュニケーションの環境の下でストレスなく仕事をしたいという意識が強く、反対に厳格さや競争意識などが高い職場、周囲との関わりが薄い社内風土は望まれない。



※図表中の表示数値は小数点以下を四捨五入

(職場環境)

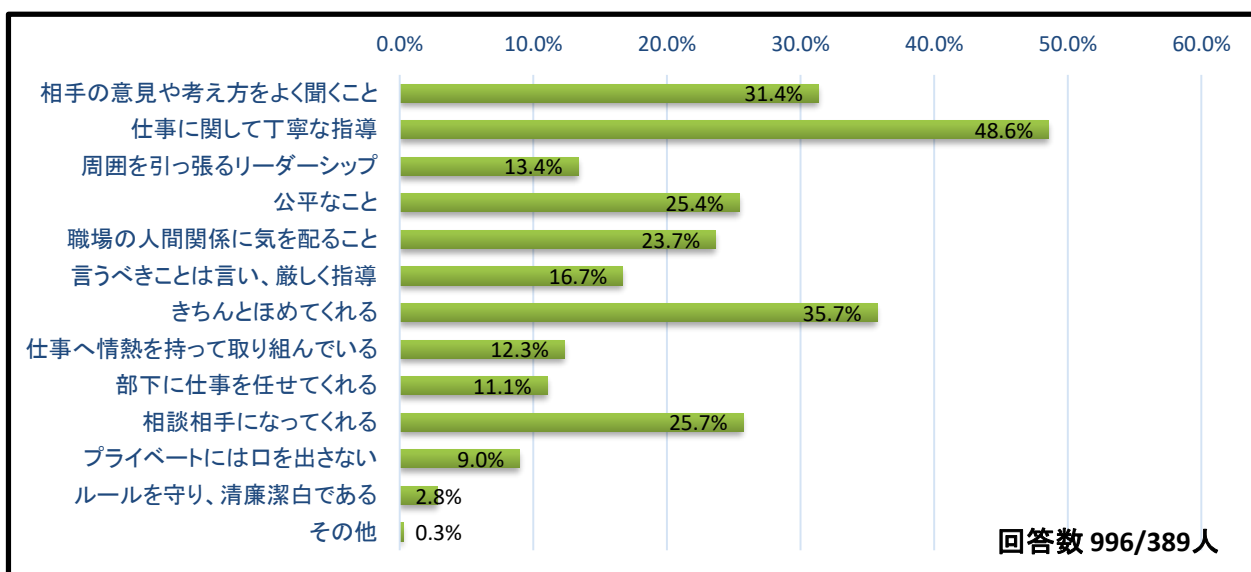
問9 上司や先輩に期待することは何ですか？(複数回答可、最大3項目)

項目	分類	男女別			学歴別			
		合計	男性	女性	無回答	高校卒	短大卒	大学卒
相手の意見や考え方をよく聞くこと		31.4%	37.5%	26.9%	0.0%	28.7%	38.3%	30.1%
仕事に関して丁寧な指導		48.6%	44.0%	52.3%	62.5%	39.3%	55.6%	51.6%
周囲を引っ張るリーダーシップ		13.4%	19.0%	7.6%	25.0%	17.2%	9.9%	12.4%
公平なこと		25.4%	24.5%	25.9%	37.5%	21.3%	32.1%	25.3%
職場の人間関係に気を配ること		23.7%	17.9%	29.4%	12.5%	20.5%	13.6%	30.1%
言うべきことは言い、厳しく指導		16.7%	20.1%	13.7%	12.5%	22.1%	12.3%	15.1%
きちんとほめてくれる		35.7%	32.6%	39.1%	25.0%	34.4%	37.0%	36.0%
仕事へ情熱を持って取り組んでいる		12.3%	13.0%	12.2%	0.0%	14.8%	16.0%	9.1%
部下に仕事を任せてくれる		11.1%	10.3%	10.7%	37.5%	14.8%	16.0%	6.5%
相談相手になってくれる		25.7%	19.0%	32.5%	12.5%	25.4%	14.8%	30.6%
プライベートには口を出さない		9.0%	9.8%	8.1%	12.5%	8.2%	8.6%	9.7%
ルールを守り、清廉潔白である		2.8%	4.3%	1.5%	0.0%	2.5%	0.0%	4.3%
その他		0.3%	0.0%	0.5%	0.0%	0.8%	0.0%	0.0%

懐が深く、丁寧な指導ができる上司が理想

1位が「仕事に関して丁寧な指導」で48.6%、2位の「きちんとほめてくれる」、3位の「相手の意見や考え方をよく聞くこと」も約3人に一人が選択している。「公平なこと」、「職場の人間関係に気を配る」、「相談相手になってくれる」も4人に一人程度は選択。

優しくて丁寧に指導してくれること、相手の立場になって接してくれることを望む声が多く、厳しさや強いリーダーシップに対しては一步引いている感がある。この傾向については簡単に変わりそうにない。



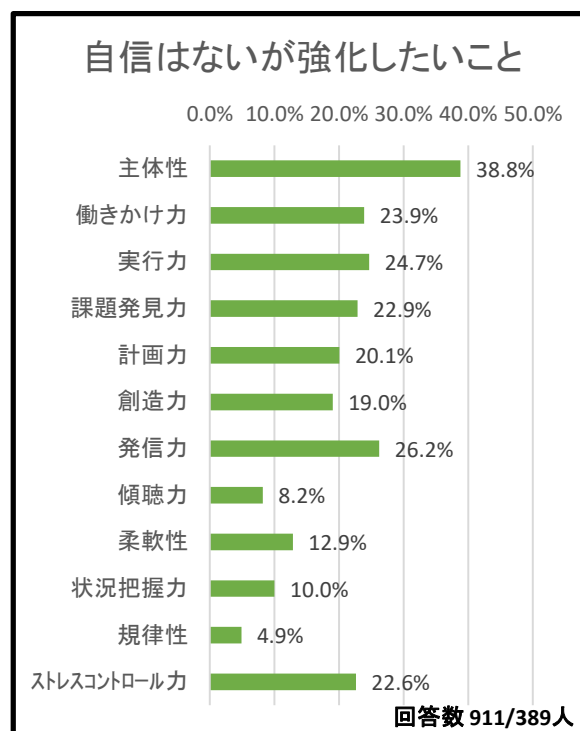
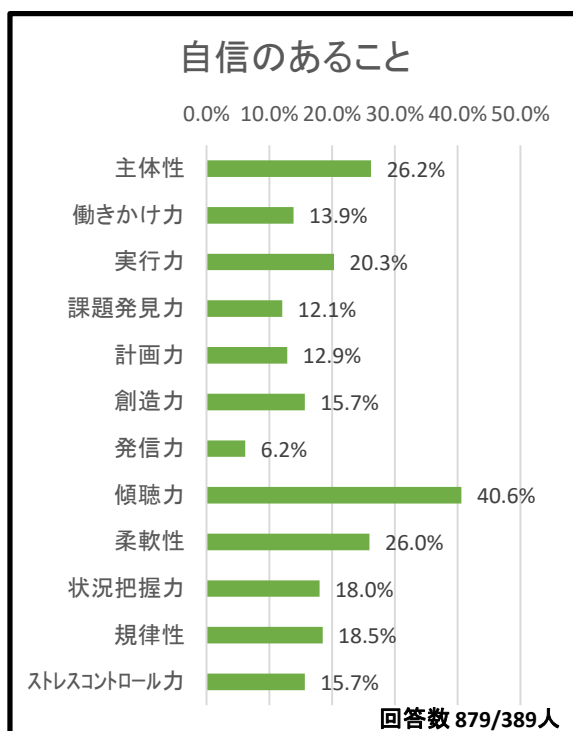
※図表中の表示数値は小数点以下を四捨五入

(自己分析)

問10 あなたが今自信のある能力はどれですか？

問11 自信はないが、今後意識的に強化したい能力はどれですか？

(複数回答可、最大3項目)



※図表中の表示数値は小数点以下を四捨五入

「アウトプットが大事」ということを理解

仕事をする上で自信のある能力(自身の強み)の上位は、1位「傾聴力」40.6%、2位「主体性」26.2%、3位「柔軟性」26.0%、以下「実行力」「規律性」「状況把握力」と続く。自信がないが意識的に強化したいことは、1位「主体性」38.8%、2位「発信力」26.2%、3位に「実行力」24.7%、以下「働きかけ力」「課題発見力」「ストレスコントロール力」と続いた。

「主体性」をはじめとして「発信力」「実行力」「働きかけ力」を強化したい能力と選択した回答が多く、知識を蓄えるためインプットを大事にしてきた学生時代と違い、受け身にならず自分で考え、発言・行動していくアウトプットの重要性を自ずと認識している。

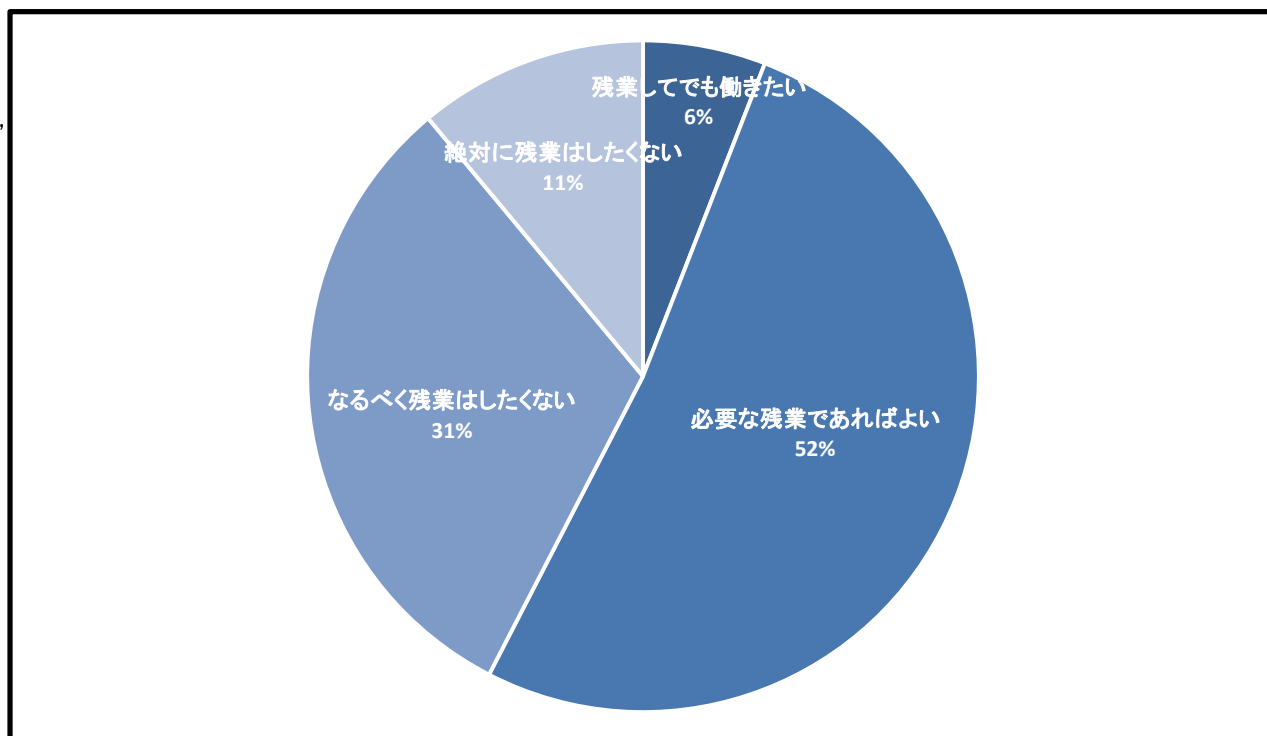
問12 残業についてお聞かせください

項目	分類	男女別			学歴別			
		合計	男性	女性	無回答	高校卒	短大卒	大学卒
残業してでも働きたい		5.9%	7.1%	4.6%	12.5%	8.2%	7.4%	3.8%
必要な残業であればよい		51.7%	56.0%	48.2%	37.5%	61.5%	46.9%	47.3%
なるべく残業はしたくない		31.4%	25.5%	36.5%	37.5%	23.0%	29.6%	37.6%
絶対に残業はしたくない		11.1%	11.4%	10.7%	12.5%	7.4%	16.0%	11.3%

ワークライフバランス重視

「必要な残業であればよい」が最も多く51.7%、次いで「なるべく残業はしたくない」が31.4%となった。「残業してでも働きたい」という回答は5.9%と低く、「がむしゃらに仕事を頑張る」、「少しでも長い時間仕事をして収入を増やしたい」といった意見はバブル以降希少なものとなっている。

男女別に見ると同じ傾向だが、学歴別に見ると面白い差が出ている。高校卒では残業肯定型が約7割もあるのに対して、短大卒、大学卒となるに従いその割合が低くなっている。



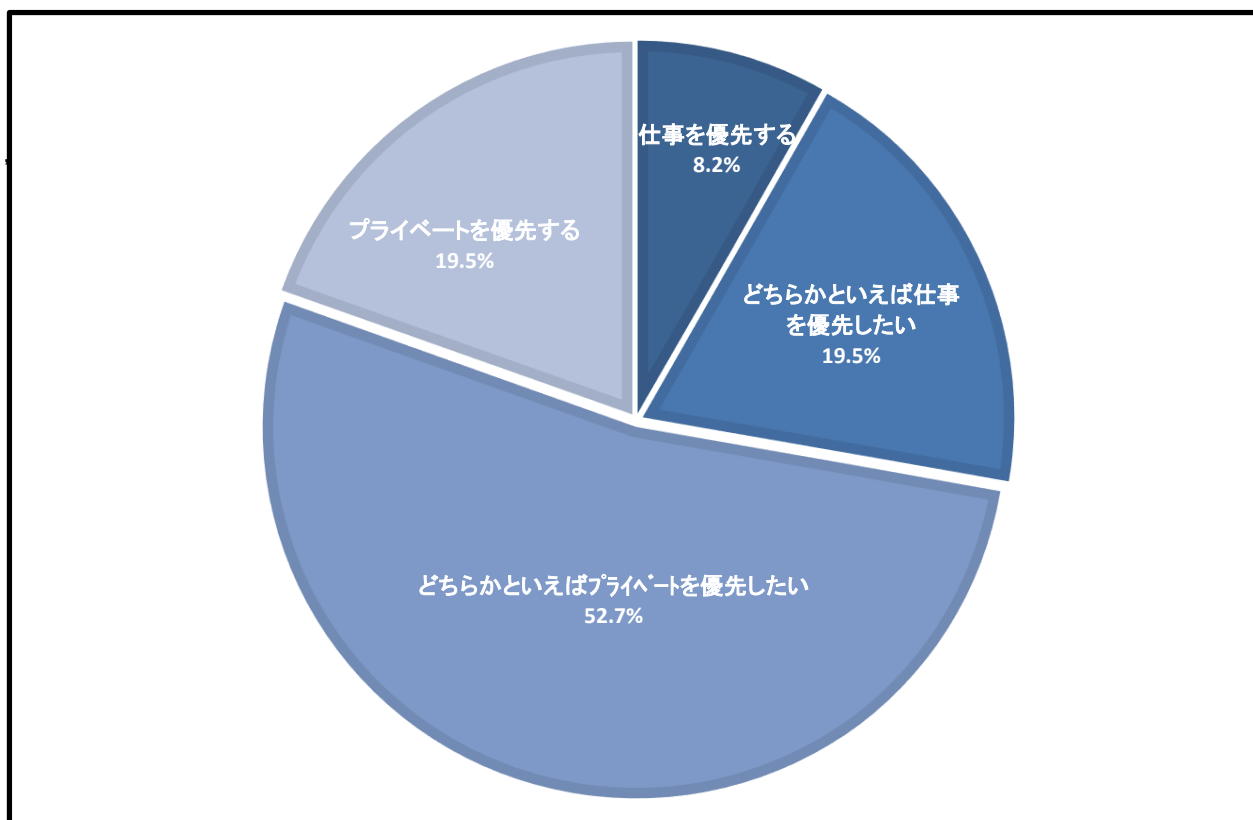
※図表中の表示数値は小数点以下を四捨五入

問13 仕事とプライベートについてお聞かせください

項目	分類	男女別			学歴別			
		合計	男性	女性	無回答	高校卒	短大卒	大学卒
仕事を優先する		8.2%	8.7%	8.1%	0.0%	12.3%	11.1%	4.3%
どちらかといえば仕事を優先したい		19.5%	17.9%	21.3%	12.5%	23.0%	25.9%	14.5%
どちらかといえばプライベートを優先したい		52.7%	51.1%	54.8%	37.5%	47.5%	42.0%	60.8%
プライベートを優先する		19.5%	22.3%	15.7%	50.0%	17.2%	21.0%	20.4%

7割超がプライベート優先

1位が「どちらかといえばプライベートを優先」で52.7%。次いで「どちらかといえば仕事を優先」と「プライベートを優先」が同じ19.5%となり、総じてプライベート重視派が7割超。昨年と比較してもプライベート優先派が11.1%も増加している。また、男女別では同じ傾向ながら、世代別で見ると大学卒でその傾向が大きく、仕事優先派は18.8%しかいなかった。



※図表中の表示数値は小数点以下を四捨五入

(プライベート)

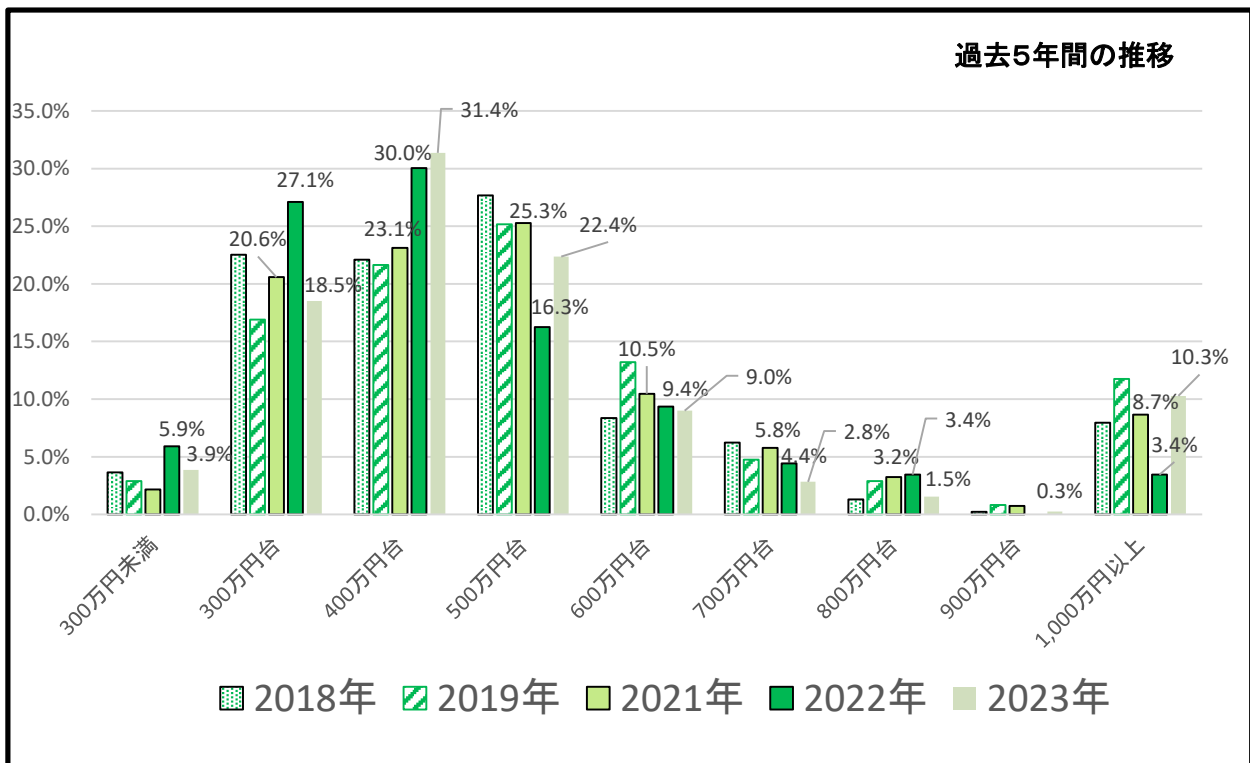
問14 30歳時点での理想の年収を教えてください

項目	分類	男女別			学歴別			
		合計	男性	女性	無回答	高校卒	短大卒	大学卒
300万円未満		3.9%	2.7%	2.7%	4.6%	6.6%	1.2%	3.2%
300万円台		18.5%	11.4%	11.4%	24.4%	19.7%	25.9%	14.5%
400万円台		31.4%	24.5%	24.5%	38.1%	32.8%	35.8%	28.5%
500万円台		22.4%	24.5%	24.5%	21.3%	18.0%	22.2%	25.3%
600万円台		9.0%	12.0%	12.0%	6.1%	9.0%	4.9%	10.8%
700万円台		2.8%	4.3%	4.3%	1.5%	2.5%	1.2%	3.8%
800万円台		1.5%	3.3%	3.3%	0.0%	1.6%	0.0%	2.2%
900万円台		0.3%	0.5%	0.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.5%
1,000万円以上		10.3%	16.8%	16.8%	4.1%	9.8%	8.6%	11.3%

昨年よりは若干目線が上がる

第1位は「400万円台」31.4%、続いて「500万円台」が22.4%、「300万円台」が18.5%となった。300万円未満を仮に250万円と仮定して、加重平均をとってみると昨年在約450万円、今年が約500万円と目線が上昇。昨年はコロナ禍の影響から求める収入も下がったと思われるが、今年は最近の物価高の影響もあるのかもしれない。特に大学卒の傾向が顕著で、300万円・400万円台が約15%減少し、500万円・600万円台が約12%も上昇している。

ただ、全国的な同様のアンケートと比べると1割程度低く、これは地域での賃金格差を表していると推測される。



※図表中の表示数値は小数点以下を四捨五入

－ ご利用に際して －

- 本資料はアンケート結果に基づいて作成されていますが、当行がその正確性、完全性を保証するものではありません。
- 本資料に基づくお客さまの決定、行為、及びその結果について、当行は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客さまご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。